

第2回 未来授業研究会

2022/10/21 図書情報課

2022年7月大分天ヶ瀬温泉街





2020年7月豪雨災害





天ヶ瀬未来創造プロジェクト



子供たちに残したい 未来は？

天ヶ瀬未来創造プロジェクトの人たちが中心となって、天ヶ瀬温泉街の人で話し合う時のテーマ

天ヶ瀬の人が選んだ言葉



川と湯のまち 天ヶ瀬



それでも
川が好き。



2074年の宮崎 西高校は？

2074年 宮崎西高100周年までにノーベル賞受賞者を輩出する。そうしてスタートした未来授業計画。今回は子供たちにどんな未来を残すのか、夢を語る機会になればと考えて企画しました。



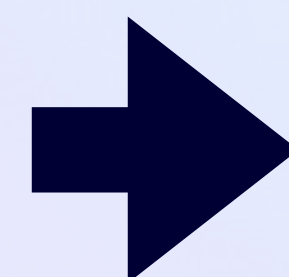
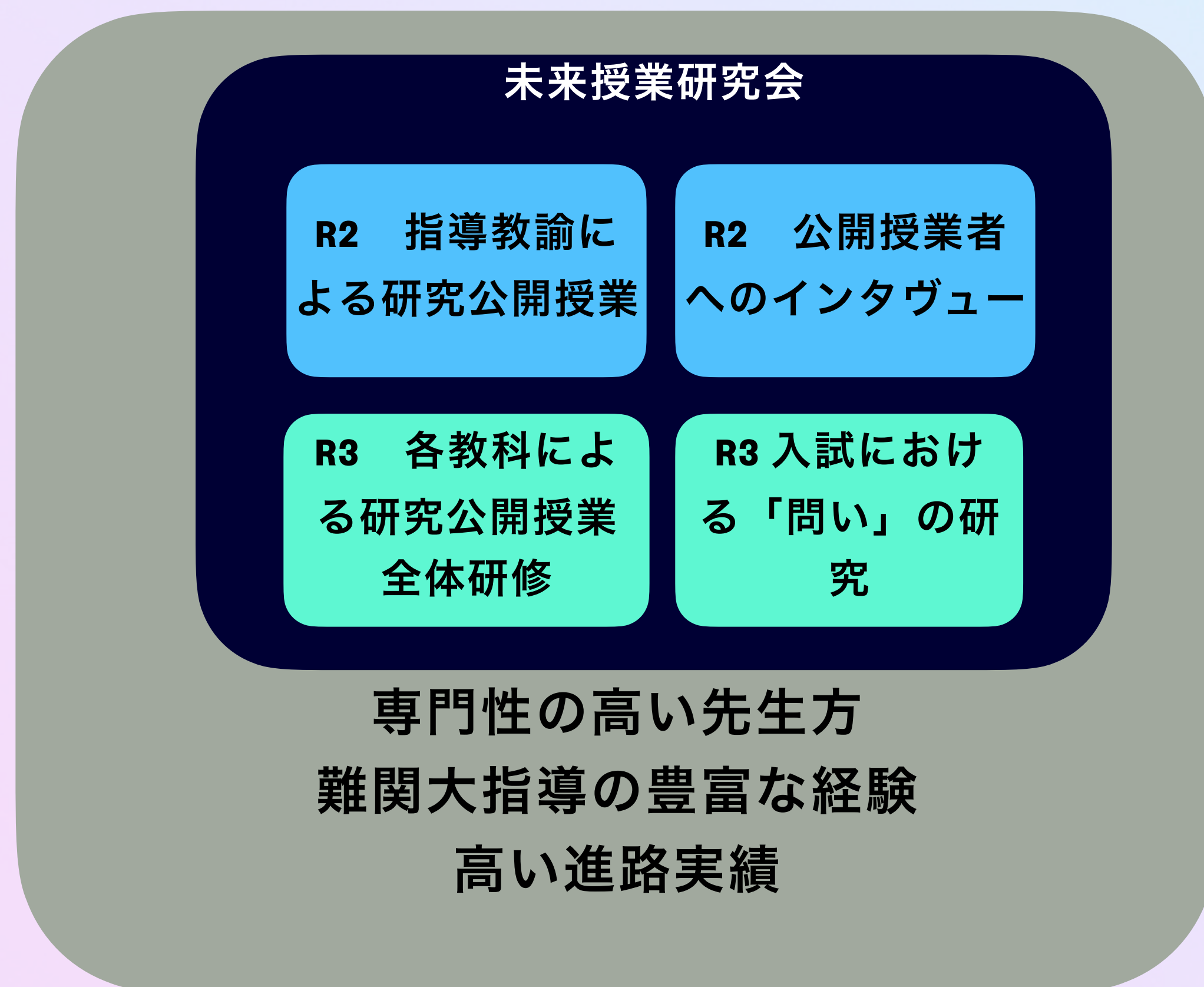
本日の内容

- 1 これまでの未来授業研究会
- 2 これからの社会
- 3 令和の日本型学校教育
- 4 分科会の進め方

これまでの未来授業研究会

問いを立てる授業のための「問いの焦点化」がなされている。

これまでの未来授業研究会

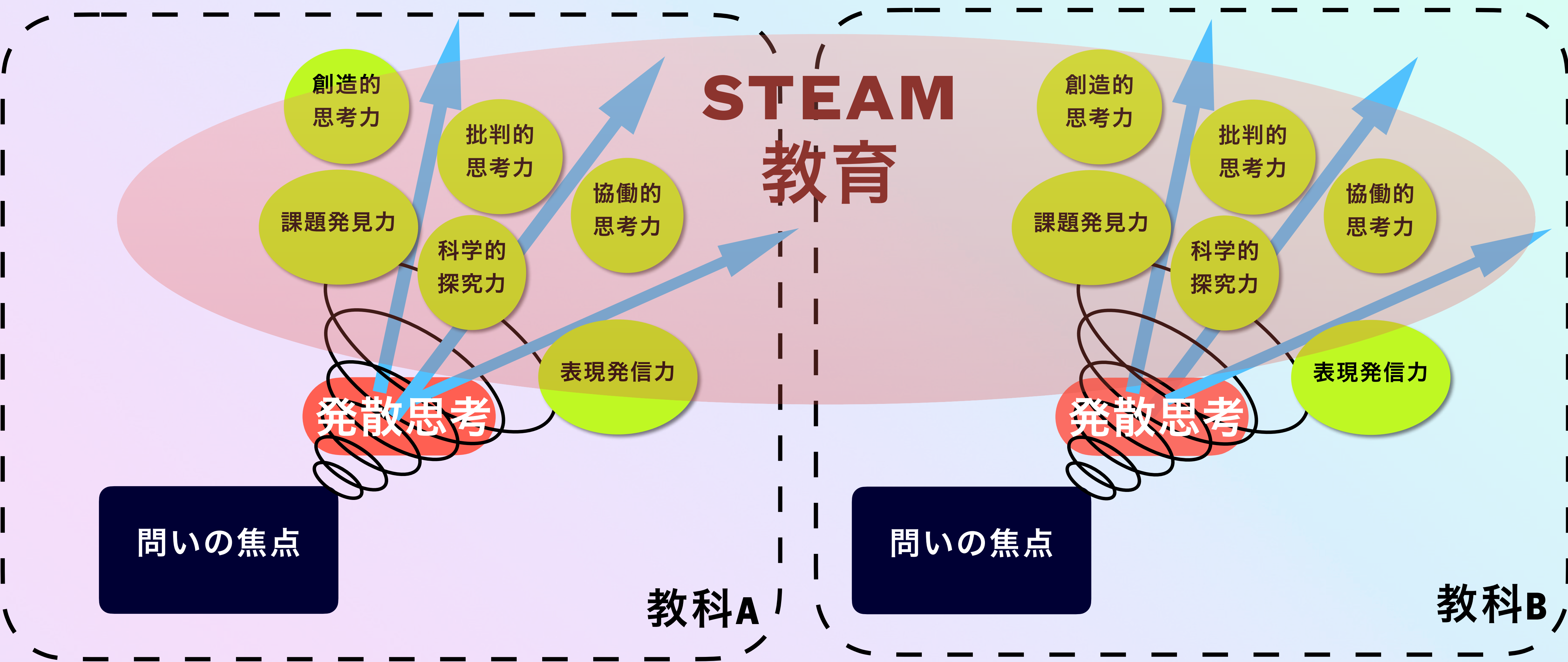


問いが焦点化されている

資質能力を身に付けさせて
いる

問いの焦点から広がる発散思考的授業が教科横断的に展開されている。

これまでの未来授業研究会



これからの社会

遠隔操作でロボットが作業 アバターとして宇宙空間へ

日経ビジネス 2019.9



レイグジスタンスが開発する遠隔存在システム

TOYOTAが作る実験都市、ロボットやAIを駆使したスマートシティ“ウーブン・シティ”2021、2月着工



東京→ハワイ 30分

SPACE X HP より 2017.10

【シリコンバレー時事】米民間宇宙開発企業スペースXのイーロン・マスク最高経営責任者（CEO）は、ロケットに乗客を乗せた都市間移動の構想を明らかにした。東京からハワイへ30分で移動可能で、地球上のあらゆる場所を1時間以内で結ぶという。オーストラリア南部アデレードで開かれた国際宇宙会議の講演で表明した。



Society 5.0では、膨大なビッグデータを人間の能力を超えたAIが解析し、その結果がロボットなどを駆使して人間にフィードバックするまでには出来なかった新たな価値が産業や社会にもたらされることとなります。

これまでの情報社会(4.0)



Society 5.0



[内閣府作成]

経済発展

- エネルギーの需要増加
- 食料の需要増加
- 寿命延伸、高齢化
- 国際的な競争の激化
- 富の集中や地域間の不平等

社会的課題の解決

- 温室効果ガス（GHG）排出削減
- 食料の増産やロスの削減
- 社会コストの抑制
- 持続可能な産業化
- 富の再配分や地域間の格差是正

IoT、ロボット、AI等の先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、格差なく、多様なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供

「Society 5.0」へ

経済発展と社会的課題の解決を両立



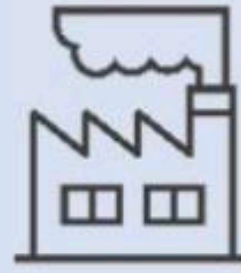
これまで

工業化社会 大量生産・大量消費

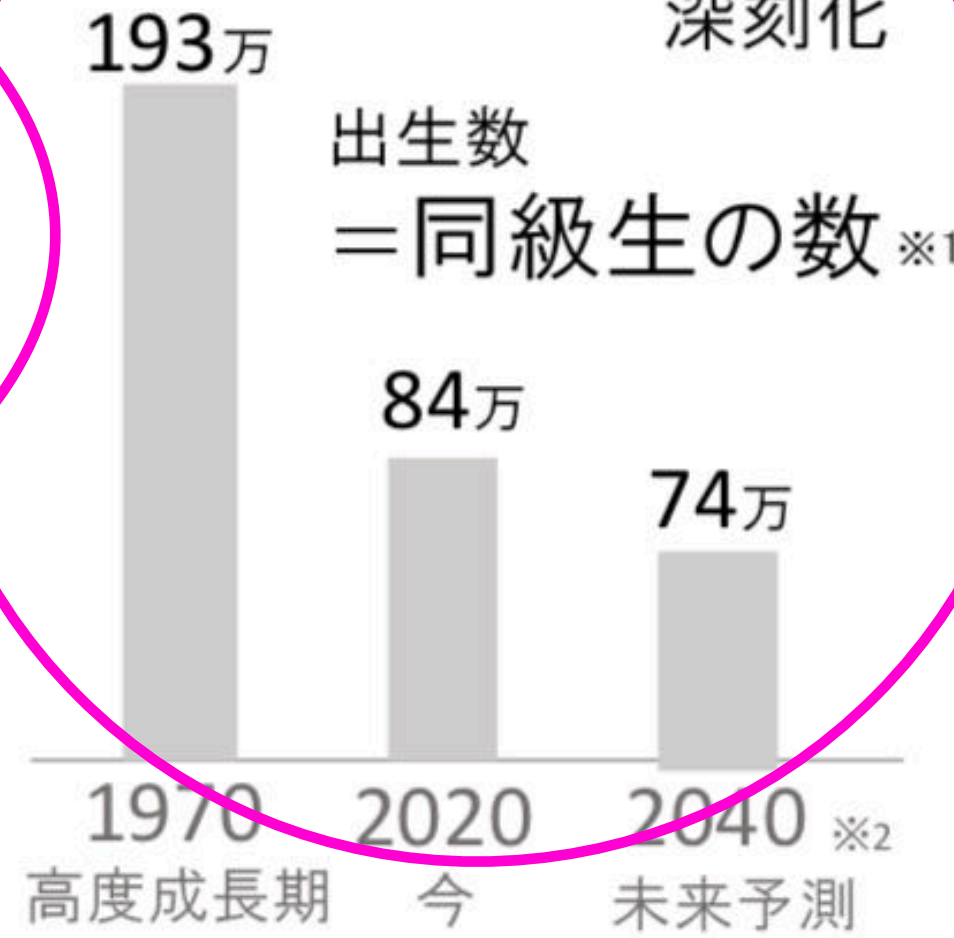
巨大化する都市環境 指数関数的な人口増

経済成長

新卒一括採用・年功序列



人口減少・少子化の深刻化



今、これから

新たな価値創造

イノベーション



SDGs

Society 5.0

一人ひとりの多様な幸せ well-being

DX

地球規模課題 多様性 安全・安心

AI 人材の流動化 総合知



同質性・均質性
一律一様の教育・人材育成

一斉授業

形式的平等主義

みんな一緒に みんな同じペースで みんな同じことを



世界トップレベルの
教育システム

~~同調圧力
正解主義~~

価値創造やイノベーション創出の
最大の敵

一人一台端末
オンライン環境の整備
コロナで進んだデジタル化

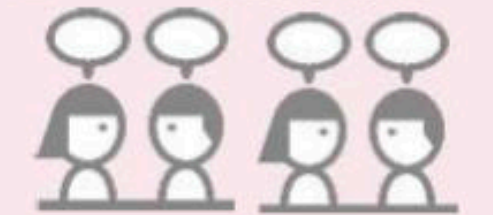


多様性を重視した教育・人材育成

個別最適な学び

協働的な学び

それぞれのペースで自分の学びを 対話を通じた「納得解」の形成



探究力重視

社会とシームレスな
協働体制

子供の主体性

自ら学びを調整し、
社会に生きる学び
や試行錯誤しながら、
自ら課題を設定し課題に
立ち向かう「探究力」を
評価

社会や専門的な
力を入れて、
一人ひとりの特性を
重視して、その力をさら
に伸ばす体制

大人の成功体験や経験にと
らわれず、子供の好奇心や
個人の興味・関心に
応じた学びや進路
選択の実現

社会

社会を支える

教育・人材育成システム

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会（第2回）

Society 5.0の実現のために、学校教育には、次代を切り拓くイノベーションの源泉である創造性と「多様性」「公正や個人の尊厳」「多様な幸せ(well-being)」の価値が両立する「持続可能な社会の創り手」を育むことが求められている



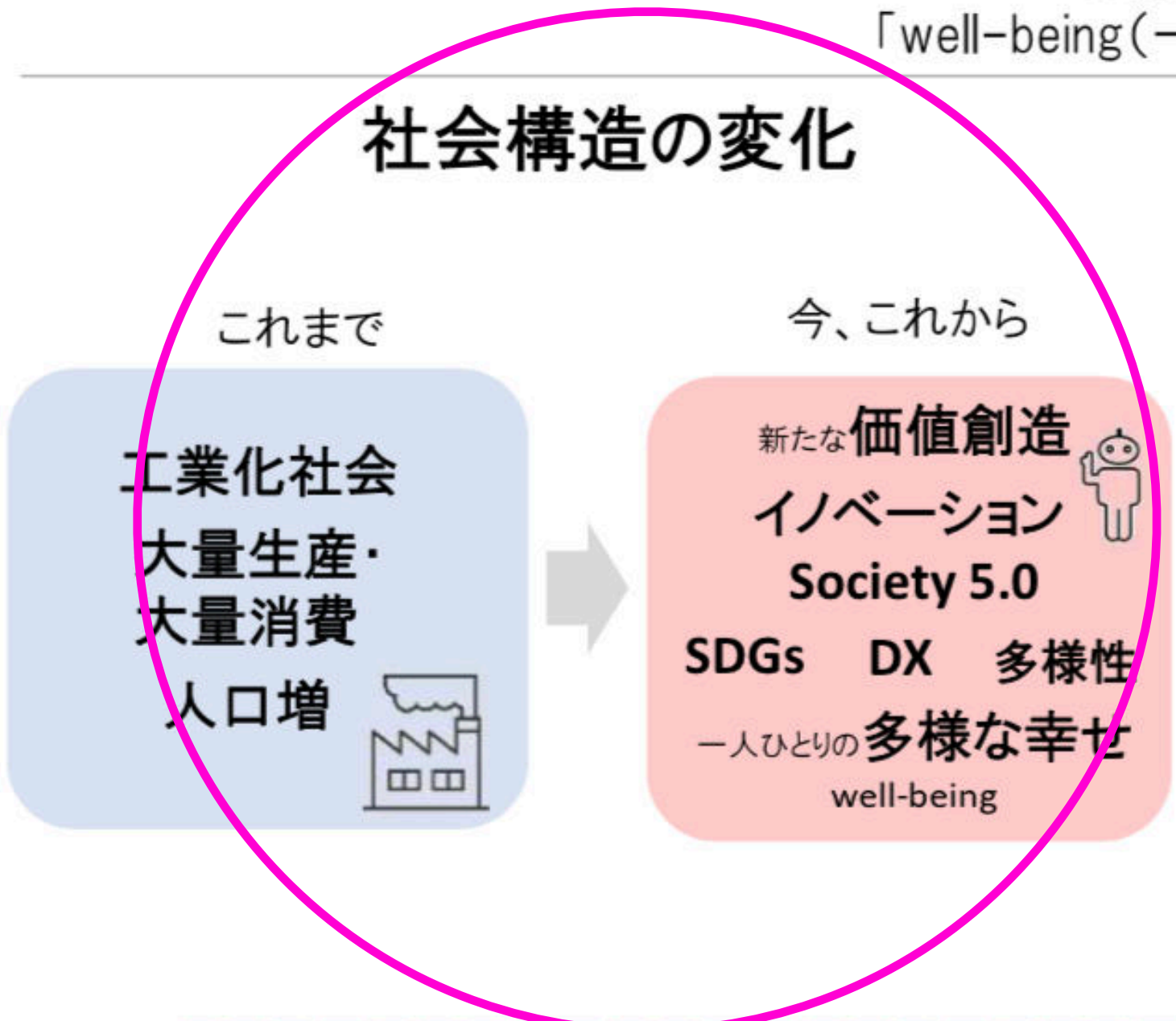
令和の日本型学校教育

【概要】 Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ

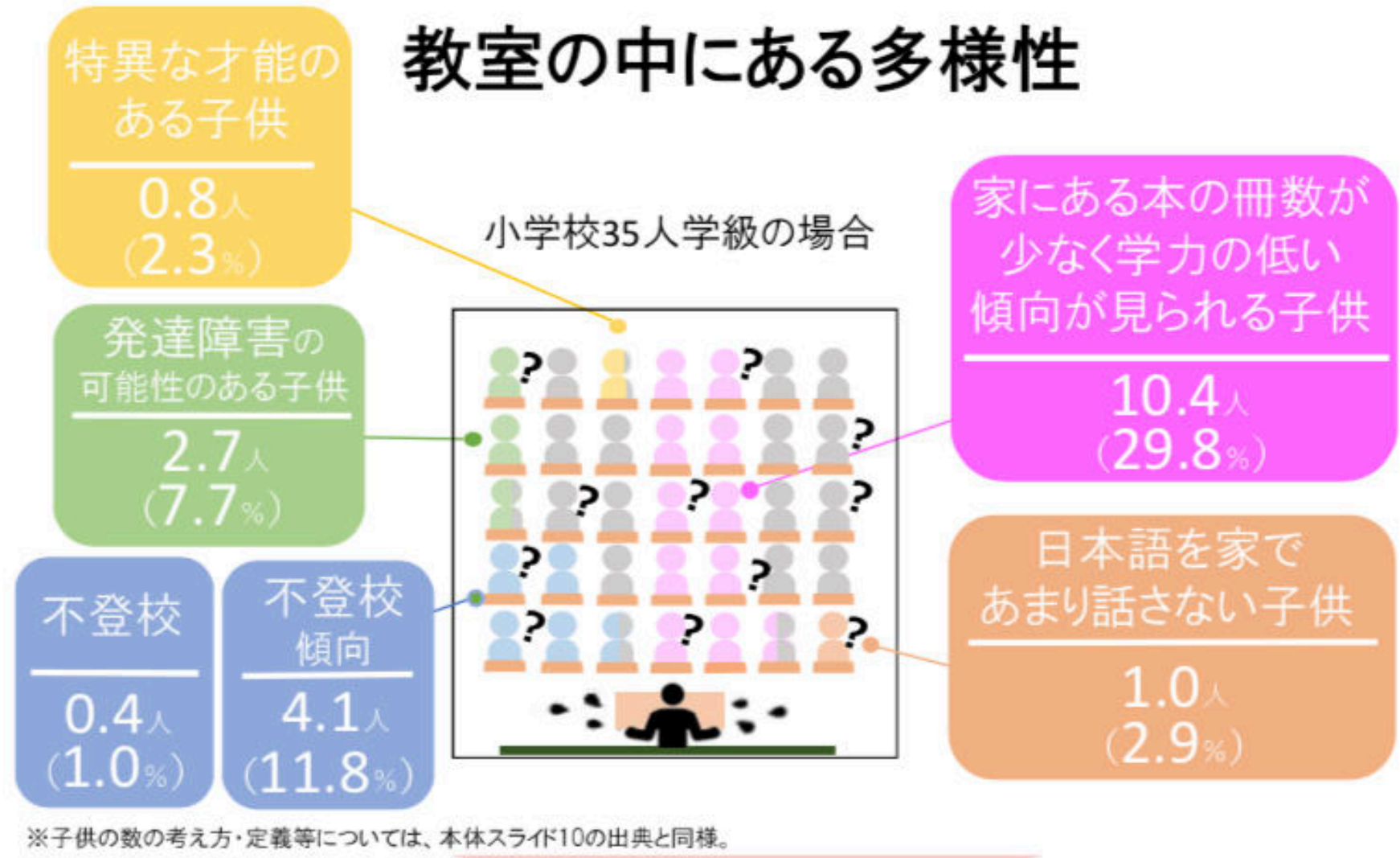
令和4年10月3日
第2回個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会
参考資料5

社会構造の変化の中で新しい価値を生み出すのは「人」
これからは人と違う特性や興味を持っていることが新しい価値創造・イノベーションの源泉
「well-being(一人ひとりの多様な幸せ)」を実現できる「創造性」あふれる社会に向けた学びへの転換が必要

社会構造の変化



教室の中にある多様性

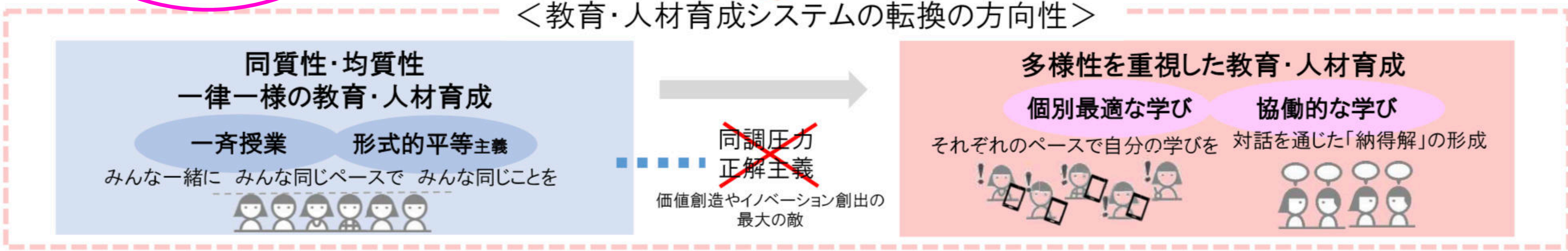


バイアスのかかる理系の進路選択

上段：一学年あたりの人数 下段：一学年（男女別）あたりの割合 (例：一学年女子の〇%)	男	女
OECD/PISA調査 15歳段階の科学的リテラシーの高成績者の	人数 約21万人 割合 40%	人数 約19万人 割合 37%
高校で理系を選択する	人数 約14万人 割合 27%	人数 約8万人 割合 16%
学士で理工農系を専攻する	人数 約9.4万人 割合 18%	人数 約2.6万人 割合 5%
修士で理工農系を専攻する	人数 約3.5万人 割合 7%	人数 約0.7万人 割合 1%

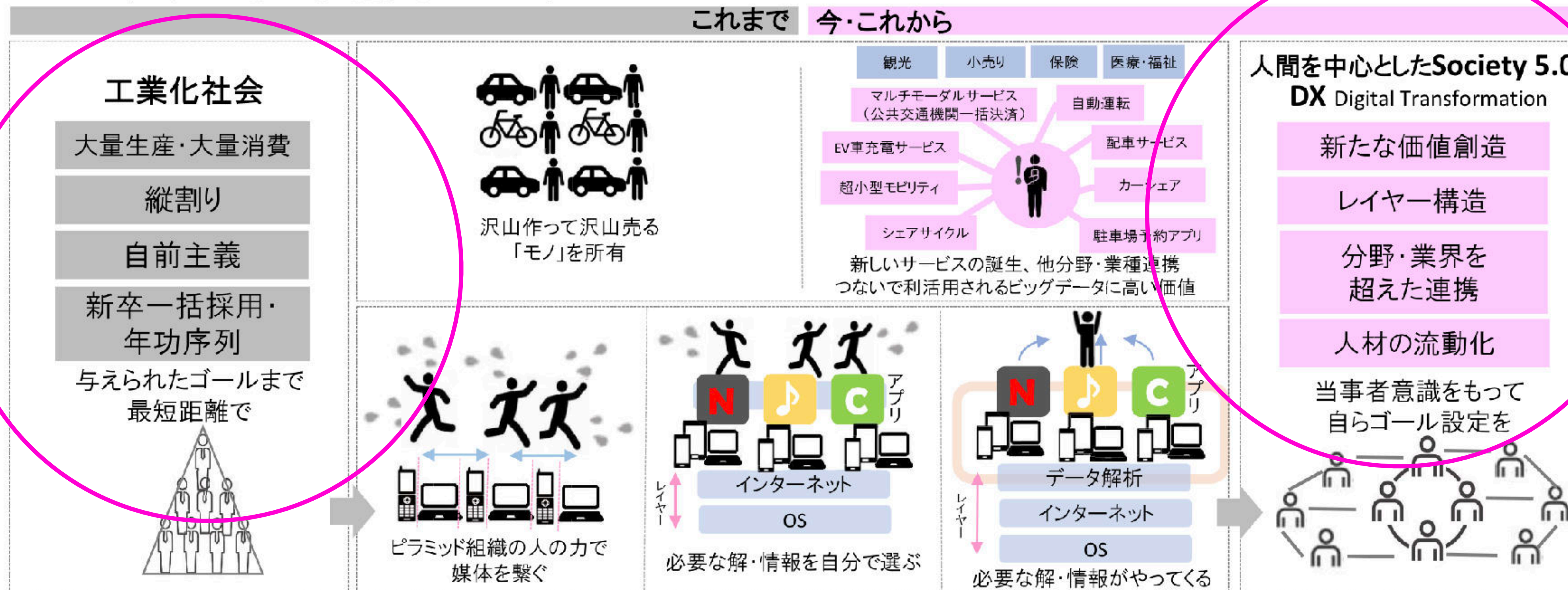
※一学年あたりの人数及び一学年（男女別）あたりの割合については、本体スライド15の出典と同様。

＜教育・人材育成システムの転換の方向性＞



1. 社会構造と子供たちを取り巻く環境の変化 (1) 社会構造の変化・必要となる思考・発想の変化

2016年に「第5期科学技術基本計画」において、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会として「Society 5.0」を提示。さらに2021年の「第6期科学技術・イノベーション基本計画」において、「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ(well-being)を実現できる社会」としてのSociety 5.0を再定義し、その実現を目指している。また昨今、必ずしも多くの人々は実感していなかったデジタル化の波も、コロナ禍において広まったオンライン環境の急速な普及によってその影響力を目の当たりにした。それに加えて、AIの飛躍的進化等により、我々の生活もDX(デジタルトランスフォーメーション)による変化が始まっている。人間中心のSociety 5.0時代において、人としての強みを活かしていく上では、一人ひとりが当事者意識を持ち、他者と協働しながら新たな価値創造を生み出すことが求められ、これまでの工業化社会とは違う「思考・発想」が求められている。



- 工業化という方向性が明確「先進国に追いつこう！」
- 大量生産・大量消費が基本で、顧客のニーズにきめ細かく対応するために、縦割り構造の細分化で対応
- 連続的なイノベーション

- 身内のコミュニケーション・人間関係を大切に
(飲み会、社員旅行、ウチの会社、ウチの業界)
- 業界内での競争(業界〇位)

- 正解がない「新しい価値創造、イノベーション創出」
- 「分野と関係なく一気に解ける」アプローチの強さ(ex.プラットフォーム)
- 誰でも使えるレイヤー(ex.クラウド)を活用した価値創出
- 非連続的なイノベーション

- 分野や業界を超えた「よそ者」と一緒に
パートナーになれる相手はどこにでもいる
- 特定の業界内の競争のみでなく、分野を超えた競合が当たり前

【概要】Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ

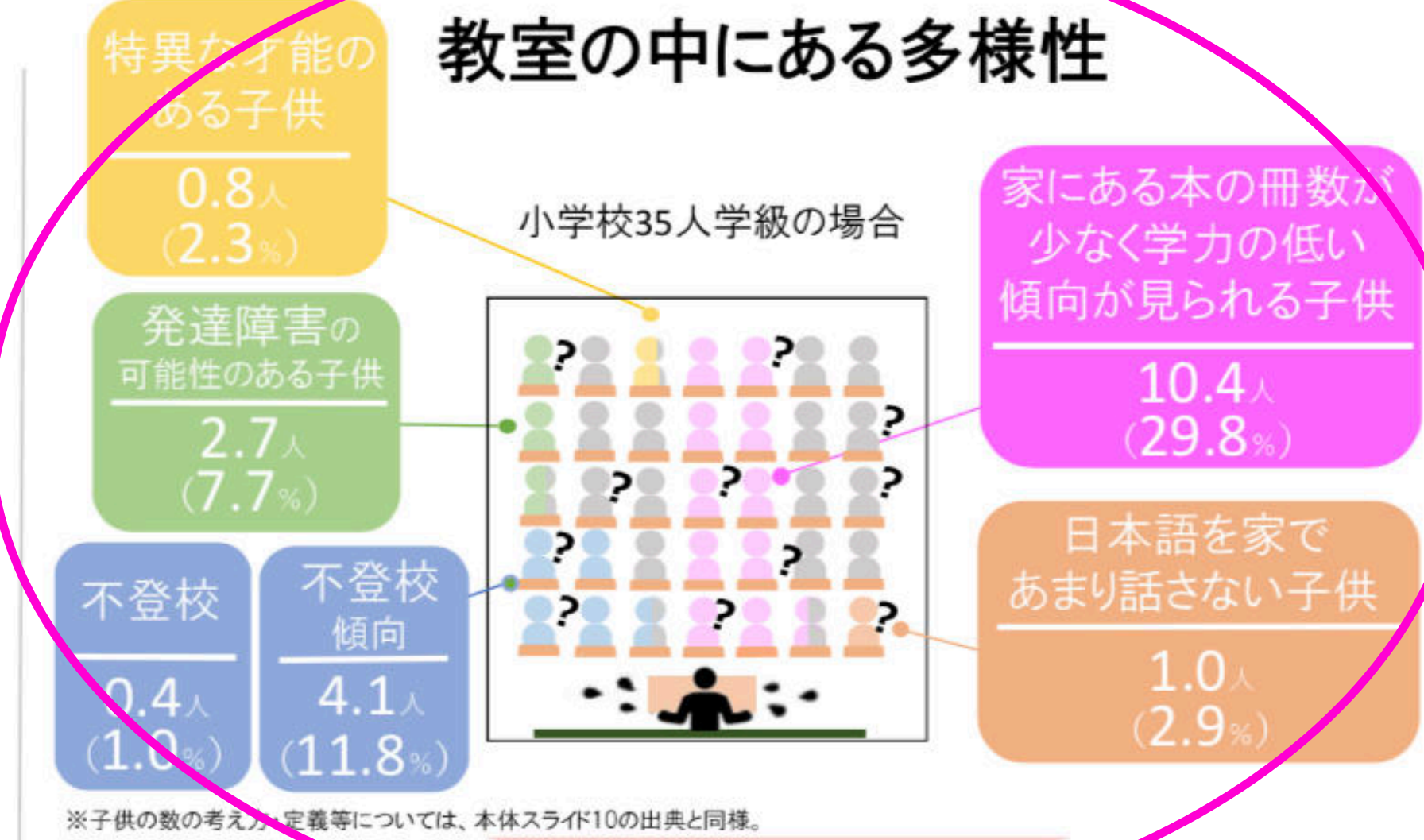
令和4年10月3日
第2回個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会
参考資料5

社会構造の変化の中で新しい価値を生み出すのは「人」
これからは人と違う特性や興味を持っていることが新しい価値創造・イノベーションの源泉
「well-being(一人ひとりの多様な幸せ)」を実現できる「創造性」あふれる社会に向けた学びへの転換が必要

社会構造の変化



教室の中にある多様性

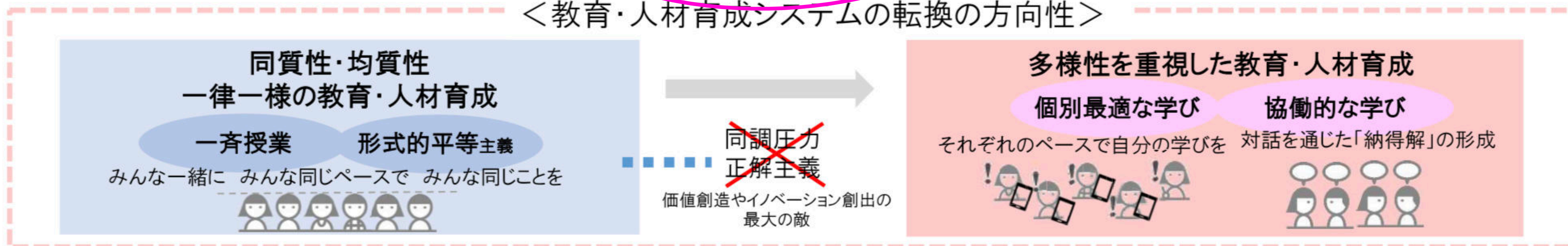


バイアスのかかる理系の進路選択

上段：一学年あたりの人数 下段：一学年（男女別）あたりの割合 (例：一学年女子の○%)	男	女
OECD/PISA調査 15歳段階の科学的リテラシーの高成績者の	人数 約21万人 割合 40%	人数 約19万人 割合 37%
高校で理系を選択する	人数 約14万人 割合 27%	人数 約8万人 割合 16%
学士で理工農系を専攻する	人数 約9.4万人 割合 18%	人数 約2.6万人 割合 5%
修士で理工農系を専攻する	人数 約3.5万人 割合 7%	人数 約0.7万人 割合 1%

※一学年あたりの人数及び一学年（男女別）あたりの割合については、本体スライド15の出典と同様。

＜教育・人材育成システムの転換の方向性＞



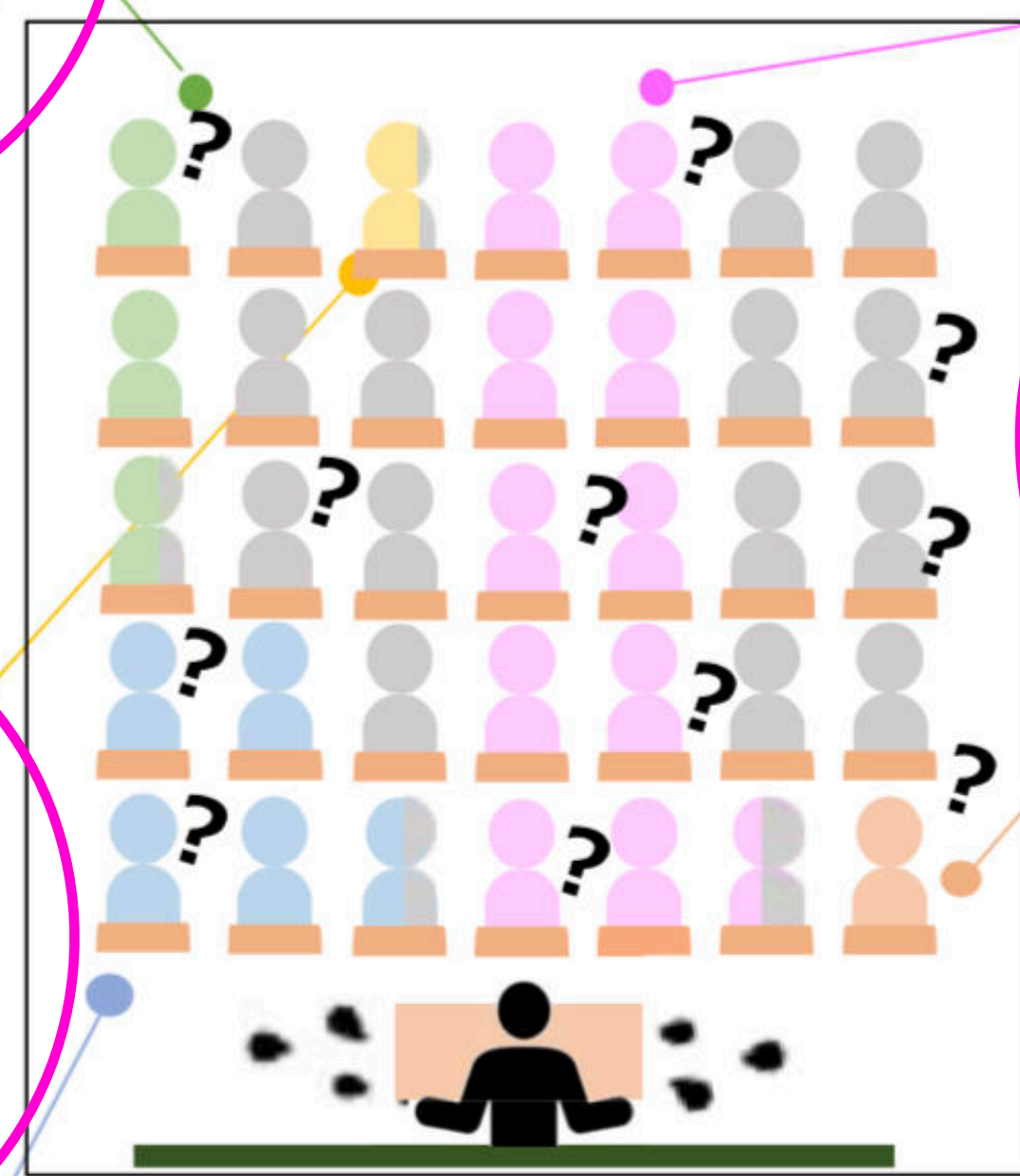
すべての子供たちの可能性を最大限引き出す教育が求められている中、教室には、発達障害や特異な才能、家で日本語を話す頻度が少ない子供、家庭の文化資本の差による学力差等、学級には様々な特性を持つ子供が存在し、これらの特性が複合しているケースもある。同学年による同年齢の集団は、同調圧力が働きやすく、学校に馴染めず苦しむ子供も一定数存在し、不登校・不登校傾向の子供は年々増加の一途をたどっている。さらには、一斉授業スタイルでは、一定の学力層に焦点を当てざるを得ず、結果として、いわゆる「浮きこぼれ」「落ちこぼれ」双方を救えていない現状。また、困難を抱えていても、一見困難に直面しているように見え、見過ごされてしまう場合がある。このように、子供たちが多様化する中で、教師一人による紙ベースの一斉授業スタイルは限界に来ている。

発達障害の可能性のある子供 (学習面or行動面で著しい困難を示す)

発達障害※1
2.7人
(7.7%)

- ・ ADHD(注意欠如多動性障害)
いつもそわそわして、じっと座ってられない。いろいろなものに気が散り、授業に集中できない。
- ・ LD(学習障害、読字障害)
文字が流暢に読めなかったり、板書に時間がかかったりして、授業の進度に合わせられない。
- ・ ASD(自閉症スペクトラム)
学習活動の見通しが持てないと不安になる。暗黙のルールがわからず、突然発言してしまう。

小学校 35人学級



特異な才能のある子供※2
0.8人
(2.3%)

- 授業が暇で苦痛。価値観や感じ方の共感も得られなくて孤独。発言すると授業の雰囲気壊してしまう。
- 小3から中学数学、小5で数ⅡBをやっていた。4歳のころ進化論を理解して、8歳で量子力学や相対性理論を理解していた。

家にある本が少ない子供※5
10.4人
(29.8%)

家庭の文化資本の違い

家にある本の冊数が少なく
学力の低い傾向が見られる子供



家で日本語をあまり話さない子供※5
1.0人
(2.9%)

家で日本語を話す頻度の違い

家で日本語を「いつも話している」子供と「全く話さない」子供の間には、正答率に差が見られる
※家で日本語を「全く話さない」「ときどき話す」と答えた割合

子供たちの特性や関心・意欲は様々

- 話すこと・聞くこと
書くこと・読むことが得意な子供
- 文字情報・音映像などの情報の扱いが得意な子供
- 音やダンスで表現することが得意な子供
- 特定の分野に極めて高い集中力を示す子供
- 興味や関心が広範囲にわたる子供
- 特定の分野などに関心・意欲や知的好奇心

不登校・不登校傾向

不登校※3
0.4人
(1.1%)

不登校傾向※4
4.1人
(11.7%)

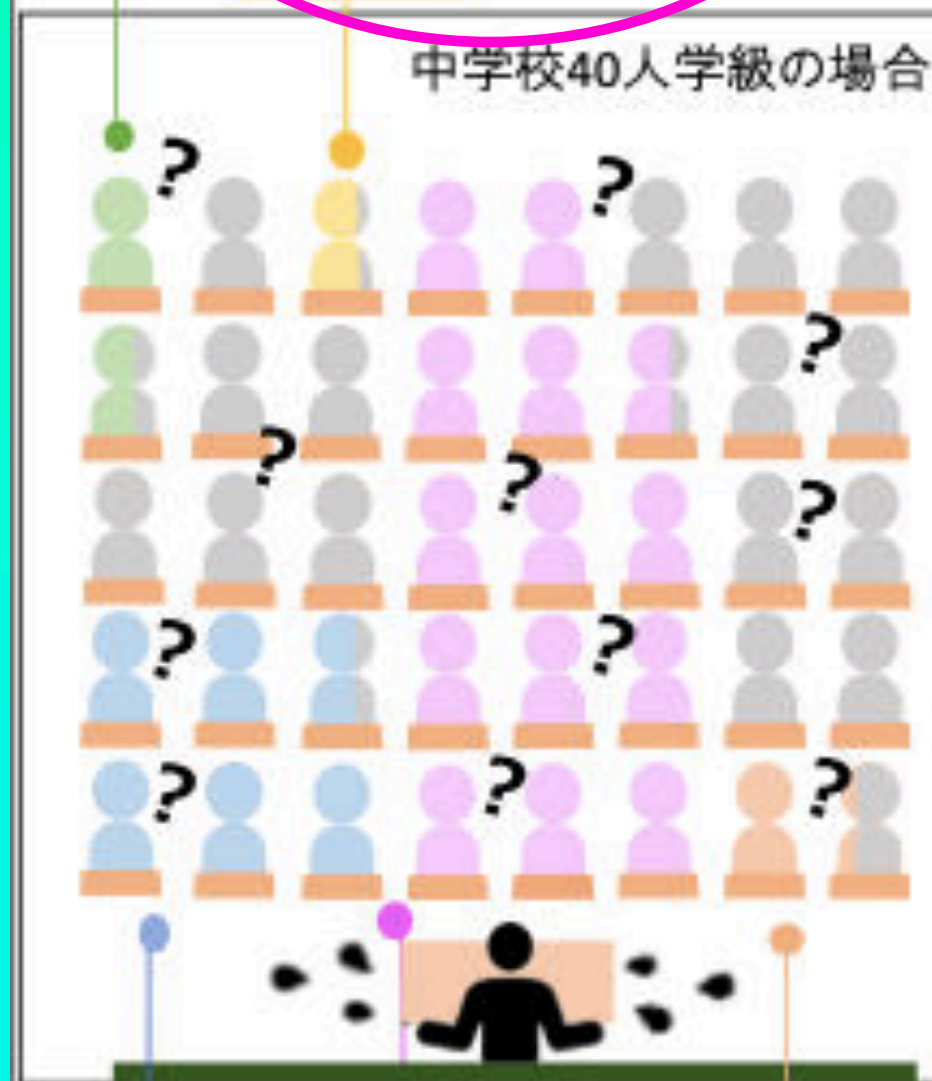
※例示している特性が複合しているケースも多い。
※特性として示している子供についても、状況にはグラデーションがあり、様々であること。
※このほかにも、学校には、病気療養で学校に通えない子供やいわゆるヤングケアラー等、多様な背景や困難を抱えている子供も存在している。

子供の認知の特性を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「そろえる」教育から「伸ばす」教育へ転換し、子供一人ひとりの多様な幸せ(well-being)を実現するとともに、一つの学校がすべての分野・機能を担う構造から、分野や機能ごとにレイヤー構造にし、デジタル技術も最大限活用しながら、社会や民間の専門性やリソースを活用する組織(教育DX)への転換を目指す。これを実現するためには、皆同じことを一斉にやり、皆と同じことができることを評価してきたこれまでの教育に対する社会全体の価値観を変えていくことも必要となる。

子供たちが多様化する中で紙ベースの一斉授業は限界

発達障害の可能性のある子供

Gifted



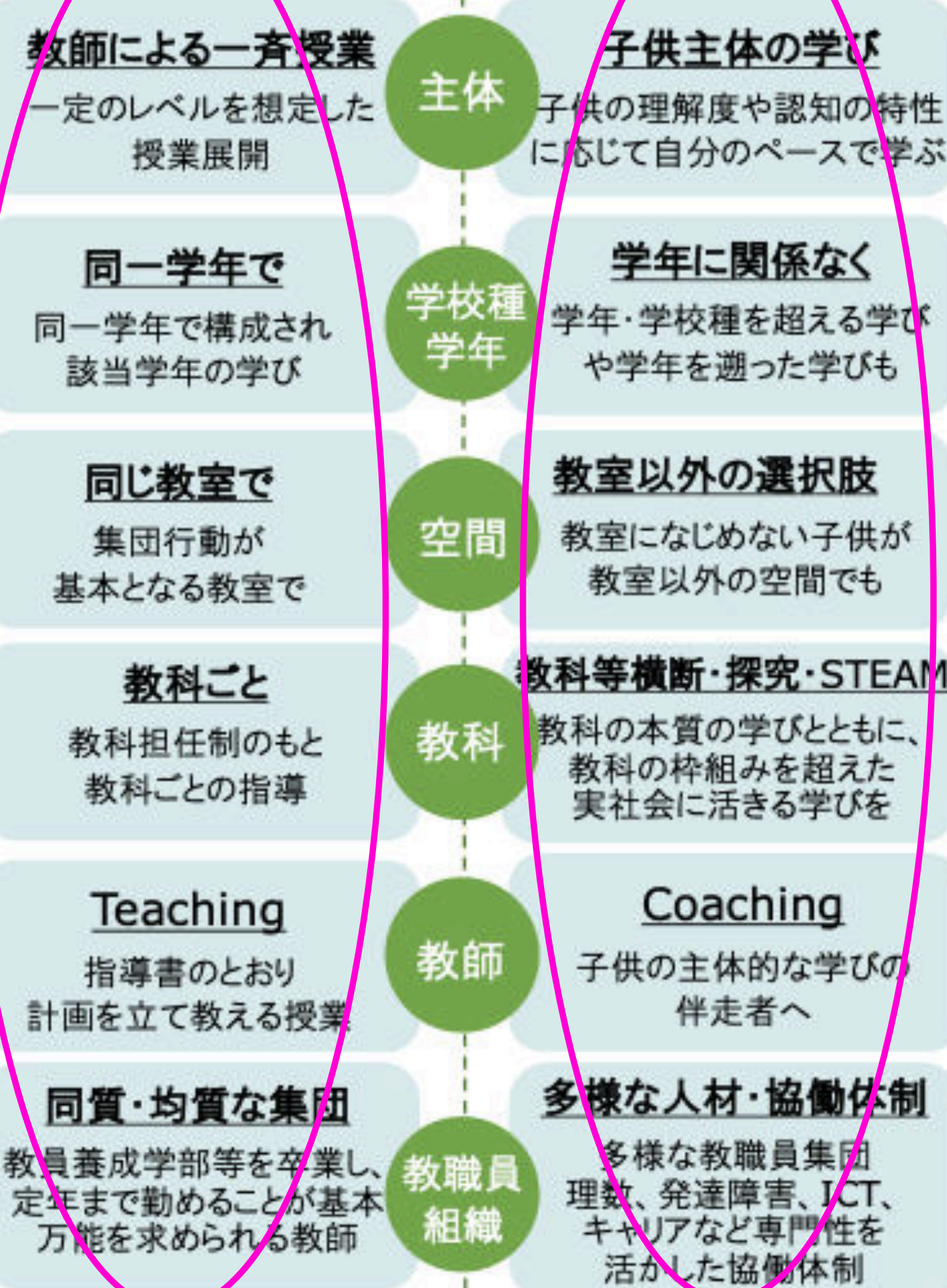
不登校・不登校傾向

日本語を家であまり話さない子供

家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向が見られる子供 ※語彙や読解力の低下は重要な教育課題

※子供の数の考え方・定義等については、スライド10の出典と同様。 ※限られたリソースの中、個別最適な学び・協働的な学びを追求している学校や教師も沢山いるが、現リソースでは一般的に限界があることを想定して図式化

2017年改訂により資質・能力重視の教育課程へと転換



教師による一斉授業 一定のレベルを想定した授業展開

子供主体の学び 子供の理解度や認知の特性に応じて自分のペースで学ぶ

同一学年で 同一学年で構成され該当学年の学び

学年に関係なく 学年・学校種を超える学びや学年を遡った学びも

同じ教室で 集団行動が基本となる教室で

教室以外の選択肢 教室になじめない子供が教室以外の空間でも

教科ごと 教科担任制のもと教科ごとの指導

教科等横断・探究・STEAM 教科の本質の学びとともに、教科の枠組みを超えた実社会に生きる学びを

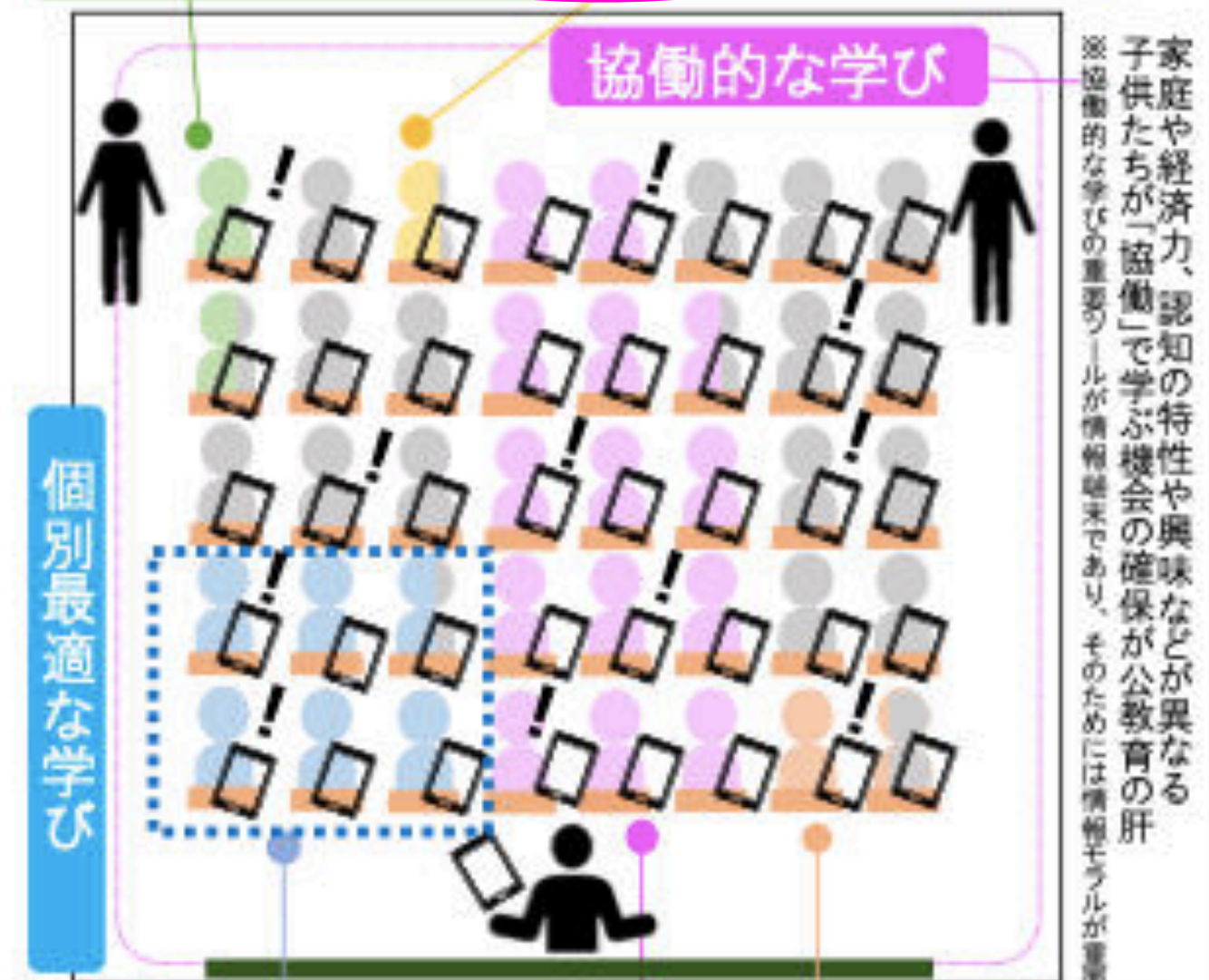
Teaching 指導書のとおり計画を立て教える授業

Coaching 子供の主体的な学びの伴走者へ

同質・均質な集団 教員養成学部等を卒業し、定年まで勤めることが基本万能を求められる教師

多様な人材・協働体制 多様な教職員集団 理数、発達障害、ICT、キャリアなど専門性を活かした協働体制

多様な子供たちに対してICTも活用し個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実



不登校・不登校傾向 学校の中に通常の学級から離れて学習ができる学びの場、教育支援センター、不登校特例校、夜間中学、フリースクールをはじめ、NPOや民間等の力も活かしつつ、従来の学び方とは別の形で学ぶことができる

日本語を家であまり話さない子供 特別なカリキュラム組み、ICTも活用しながら、日本語習得と同時に学びを進めることができる

家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向が見られる子供 タブレット等の活用により自分のペースで着実に自分の理解に応じて学びを進めることができる

※家庭や経済力、認知の特性や興味などが異なる子供たちが「協働」で学ぶ機会の確保が公教育の肝 ※協働的な学びの重要なツールが情報端末であり、そのためには情報モラルが重要

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会 (第2回)

【概要】 Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ

令和4年10月3日
第2回個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会
参考資料5

社会構造の変化の中で新しい価値を生み出すのは「人」
これからは人と違う特性や興味を持っていることが新しい価値創造・イノベーションの源泉
「well-being(一人ひとりの多様な幸せ)」を実現できる「創造性」あふれる社会に向けた学びへの転換が必要

社会構造の変化



教室の中にある多様性

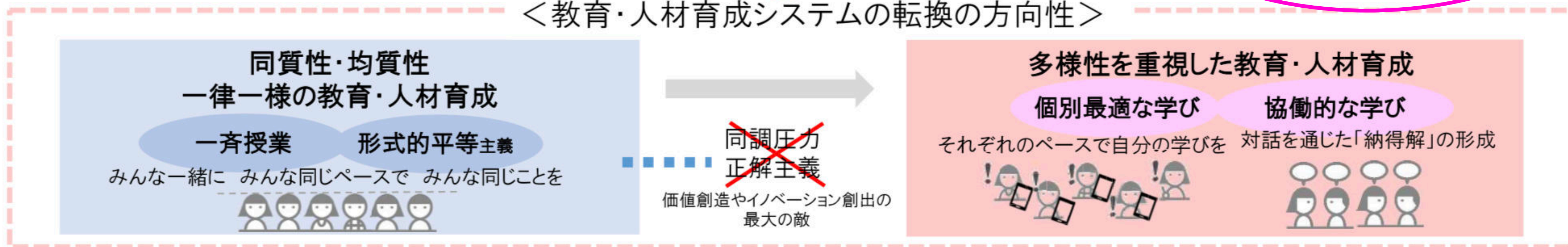


バイアスのかかる理系の進路選択

上段：一学年あたりの人数 下段：一学年（男女別）あたりの割合 (例：一学年女子の〇%)	男	女
OECD/PISA調査 15歳段階の科学的リテラシーの高成績者の	人数 約21万人 割合 40%	人数 約19万人 割合 37%
高校で理系を選択する	人数 約14万人 割合 27%	人数 約8万人 割合 16%
学士で理工農系を専攻する	人数 約9.4万人 割合 18%	人数 約2.6万人 割合 5%
修士で理工農系を専攻する	人数 約3.5万人 割合 7%	人数 約0.7万人 割合 1%

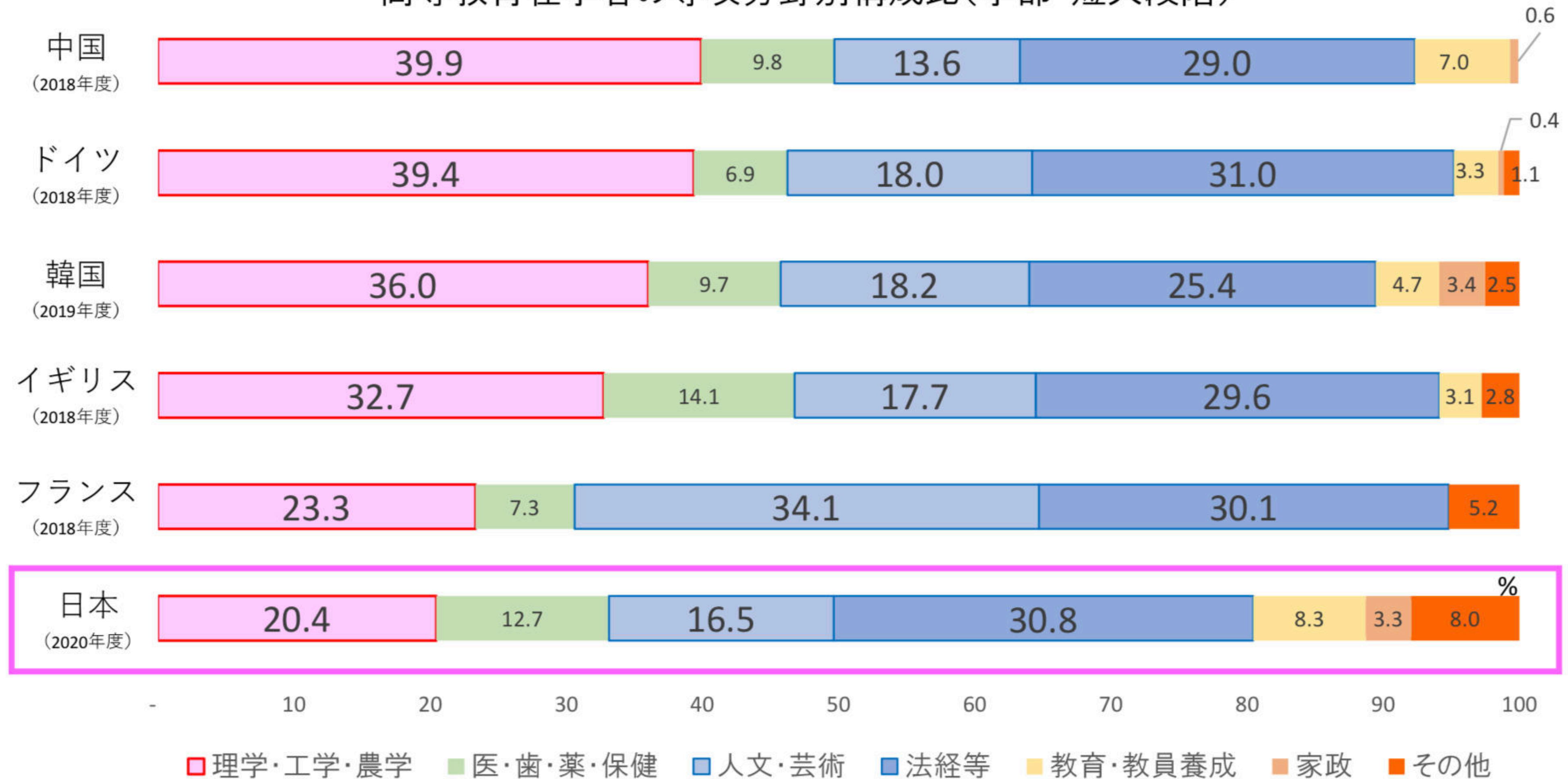
※一学年あたりの人数及び一学年（男女別）あたりの割合については、本体スライド15の出典と同様。

＜教育・人材育成システムの転換の方向性＞



高等教育在学者の専攻分野別の構成比について、諸外国と比較した場合、明らかに理学・工学・農学系の比率が低い。

高等教育在学者の専攻分野別構成比(学部・短大段階)



【概要】 Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ

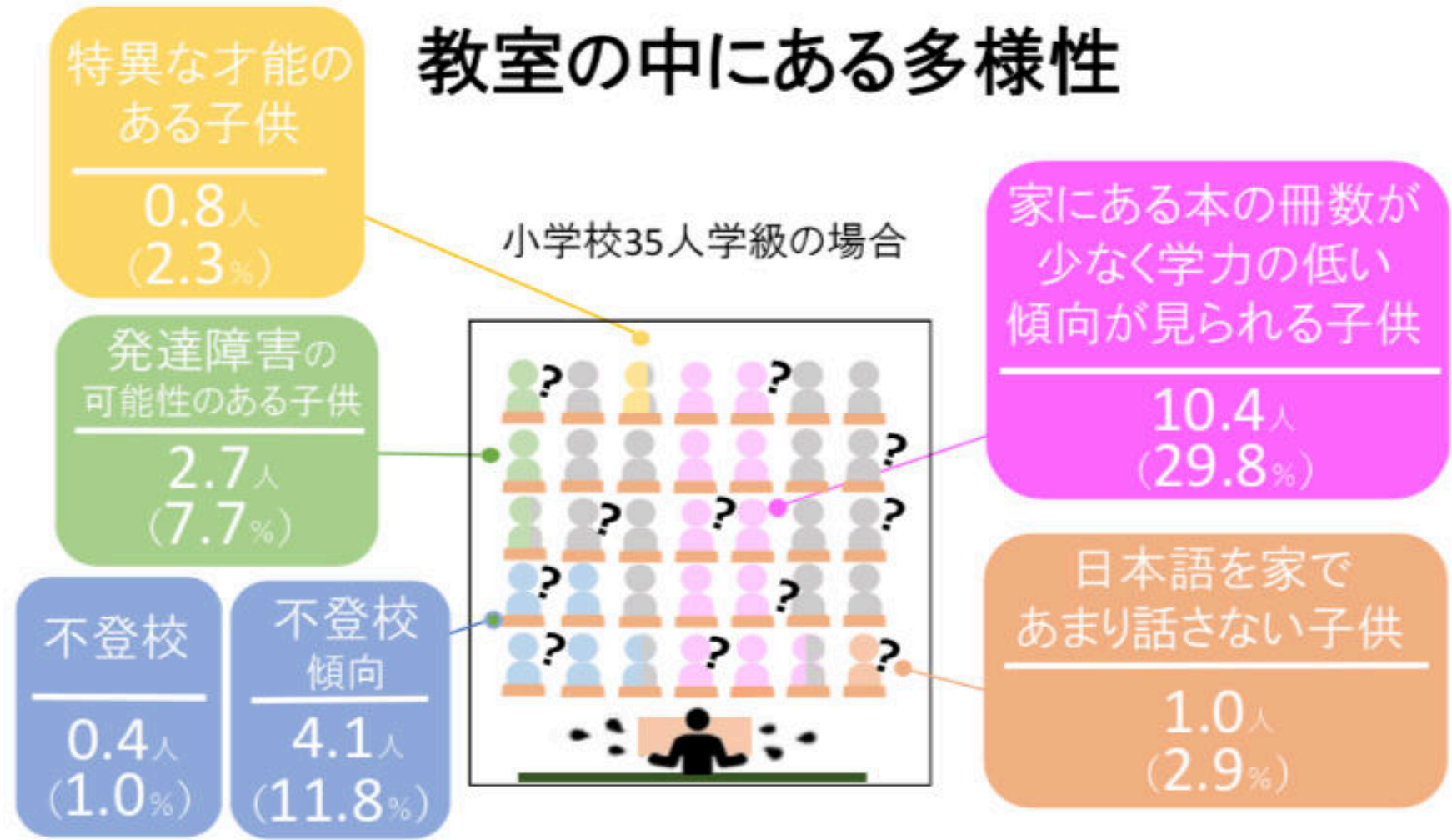
令和4年10月3日
第2回個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会
参考資料5

社会構造の変化の中で新しい価値を生み出すのは「人」
これからは人と違う特性や興味を持っていることが新しい価値創造・イノベーションの源泉
「well-being(一人ひとりの多様な幸せ)」を実現できる「創造性」あふれる社会に向けた学びへの転換が必要

社会構造の変化



教室の中にある多様性

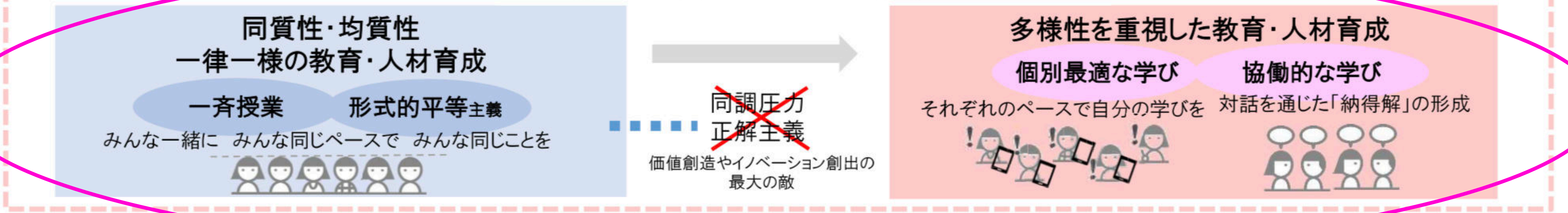


バイアスのかかる理系の進路選択

上段：一学年あたりの人数 下段：一学年（男女別）あたりの割合 (例：一学年女子の〇%)	男	女
OECD/PISA調査 15歳段階の科学的リテラシーの高成績者の	人数 約21万人 割合 40%	人数 約19万人 割合 37%
高校で理系を選択する	人数 約14万人 割合 27%	人数 約8万人 割合 16%
学士で理工農系を専攻する	人数 約9.4万人 割合 18%	人数 約2.6万人 割合 5%
修士で理工農系を専攻する	人数 約3.5万人 割合 7%	人数 約0.7万人 割合 1%

※一学年あたりの人数及び一学年（男女別）あたりの割合については、本体スライド15の出典と同様。

<教育・人材育成システムの転換の方向性>



①個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ **新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要**
- ◆ **GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要**
- ◆ **その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む**

指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、
・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に**子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援**することや、**子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる**
- ◆ その際、ICTの活用により、**学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用**することや、**教師の負担を軽減**することが重要

それぞれの学びを一体的に充実し 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

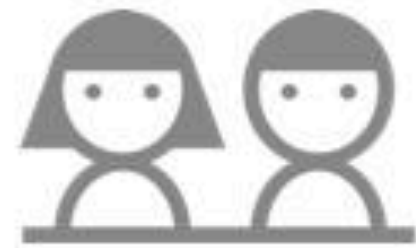
②協働的な学び

- ◆ 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、**探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実**することも重要
- ◆ 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、**一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせさり、よりよい学びを生み出す**

「令和の日本型学校教育」における「子供の学び」の姿について

「子供の学び」の姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる



個別最適な学び
協働的な学び

一体的に充実



主体的・対話的で
深い学び

授業外の学習改善

授業改善

「子供の資質・能力の育成」

個別最適な学び【学習者視点】（＝個に応じた指導【教師視点】）

「子供が自己調整しながら学習を進めていく」

指導の個別化

- ✓ 子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、
- ✓ 教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行う

→ 一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、
異なる方法等で学習を進める

学習の個性化

- ✓ 子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、
- ✓ 教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う

→ 異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

協働的な学び

- ✓ 子供一人一人のよい点や可能性を生かし、
- ✓ 子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する

→ 異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す

各学校段階において目指す学びの姿

幼児教育

- 小学校との円滑な接続、質の評価を通じたPDCAサイクルの構築等による、質の高い教育が提供されている
- 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が健やかに育つことができる

高等学校教育

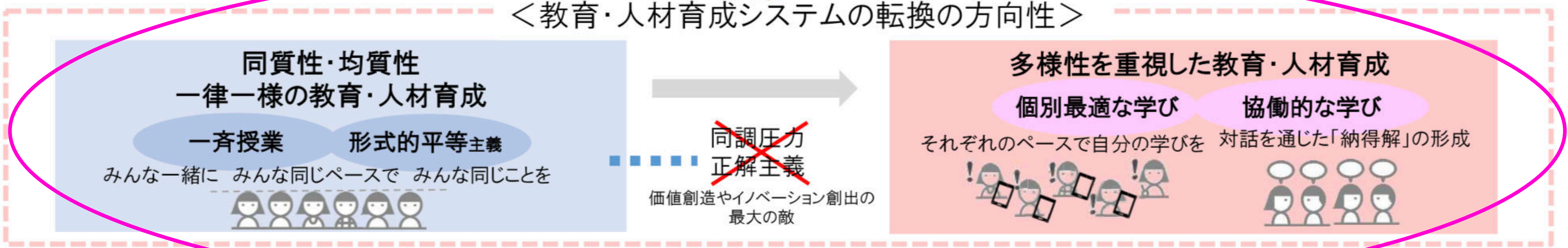
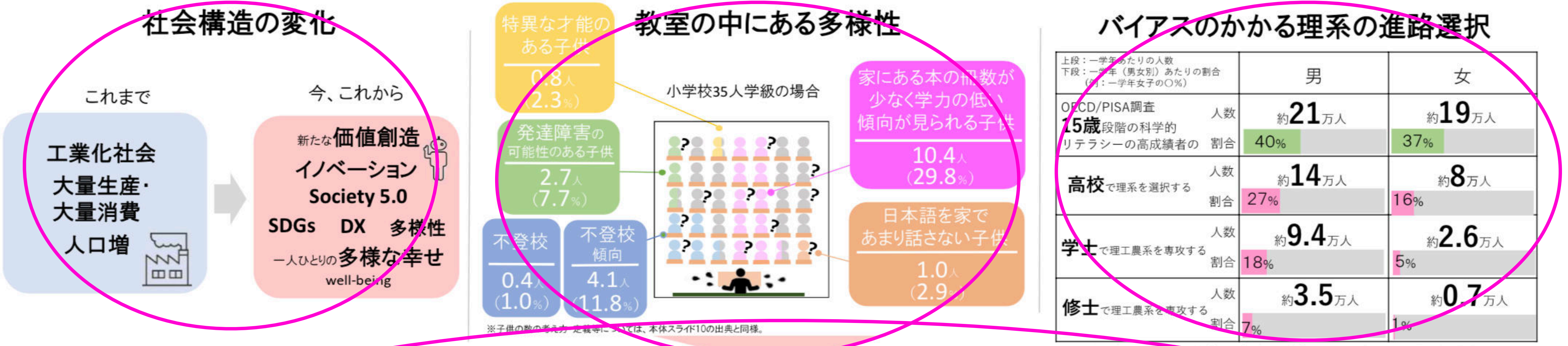
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や、社会の形成に主体的に参画するための資質・能力が育まれている
- 多様な関係機関との連携・協働による地域・社会の課題解決に向けた学びが行われている
- 探究的な学びやSTEAM教育など教科等横断的な学びが提供されている

令和の日本型学校教育のまとめ

【概要】 Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ

令和4年10月3日
第2回個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会
参考資料 5

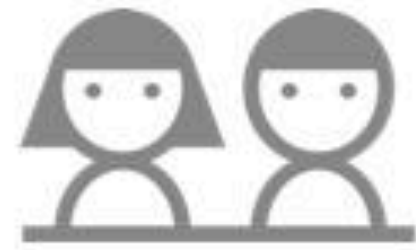
社会構造の変化の中で新しい価値を生み出すのは「人」
これからは人と違う特性や興味を持っていることが新しい価値創造・イノベーションの源泉
「well-being(一人ひとりの多様な幸せ)」を実現できる「創造性」あふれる社会に向けた学びへの転換が必要



「令和の日本型学校教育」における「子供の学び」の姿について

「子供の学び」の姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる



個別最適な学び
協働的な学び

一体的に充実



主体的・対話的で
深い学び

授業外の学習改善

授業改善

子供の資質・能力の育成

個別最適な学び【学習者視点】（＝個に応じた指導【教師視点】）

子供が自己調整しながら学習を進めていく

指導の個別化

- ✓ 子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、
- ✓ 教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行う

→ 一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、
異なる方法等で学習を進める

学習の個性化

- ✓ 子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、
- ✓ 教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う

→ 異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

協働的な学び

- ✓ 子供一人一人のよい点や可能性を生かし、
- ✓ 子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する

→ 異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す

各学校段階において目指す学びの姿

幼児教育

- 小学校との円滑な接続、質の評価を通じたPDCAサイクルの構築等による、質の高い教育が提供されている
- 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が健やかに育つことができる

高等学校教育

- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や、社会の形成に主体的に参画するための資質・能力が育まれている
- 多様な関係機関との連携・協働による地域・社会の課題解決に向けた学びが行われている
- 探究的な学びやSTEAM教育など教科等横断的な学びが提供されている

分科会の進め方

分科会② 場所

2074年の宮崎西高はどうなっている？

- 15:10～15:20の間に移動してください。
- A,B,J,K,L,M,Nグループは視聴覚室にそのままお残りください。
- C,D,E,F,G,H,Iは図書室へ移動してください。
- 各会場の座席位置は、事前に配布した資料をご覧ください。



分科会② 対話のツール

2074年の宮崎西高はどうなっている？

- ・ 15:20~16:00
- ・ 各グループに割り当てられたJamboardに、自分の意見を記入してください。
- ・ 一人一台のデバイスで自由にお書きください。
- ・ 16:00~16:10の間に再度視聴覚室へ集合をお願いします。



対話のツール

ICT活用を楽しむために

Jamboard . . . ホワイトボードみたいに使えます。付箋を貼って、自由に動かすことができます。KJ法やYチャートなどに有効です。

Slido . . . 簡単に質疑応答ができます。質問の答えを棒グラフにして結果を視覚化できます。

https://youtu.be/u_x3kPIJDXU 2分30秒

分科会② まとめ

2074年の宮崎西高はどうなっている？

- ・ 16:10～16:40 各グループの対話のまとめを行います。
- ・ 各グループ3分程度で話し合いの内容を簡潔に共有してください。
- ・ Jamboardをプロジェクターで写します。操作は東口が担当します。



分科会② 対話のルール

2074年の宮崎西高はどうなっている？

- ・ 対話の前提は“Safety”です。全て肯定的に受け入れてください。

- ・ STEAM人材のマインドセット

“Think out of the box” (型にはまらない)

“Give it a try” (ひとまずやってみる)

“Fail forward” (失敗して前進する)

世界を変えるSTEAM人材 ヤング吉原麻里子 木島理江 2019

哲学対話

梶谷真司 2018



未知の我を求めて